

明治・大正・昭和が集う 歌の会

げんき

八王子センター元気
TEL & FAX
042-627-9179
八王子市大横町11-35



ボランティアに介助された人たちが、花を持って、歌と拍手をバックに舞台から降りてきました、来場時の硬い顔から明るく満足そうな、表情にかわっています。第二回明治・大正・昭和が集う歌の会のフィナーレの様様です。

一昨年六月に、講師としての指導をしている伊藤（涼）ていくつもの福祉施設で歌講師が、施設の皆さんに

スポットライトが当たる舞台の上で歌っていただき、さらなる元気を生み出してほしい」という思いから、センター元気の主催事業として企画を行ったものを、アンコールという多くの声に答えて開催したものです。

ボランティアの協働

最初の打ち合わせは正月気分が残る今年一月八日に準備スタッフにより、開催趣旨の確認や参加予定者数、介助の体制、役割分担などが検討されました。

その後の準備作業は、定期会合のほか各スタッフが連絡を取り合いながら、施設への出場案内、ポスター、チラシの作製、市、広報やタウン誌を通じての周知手配、プログラム内容の決定、「いちようホール」との打ち合せなど順次進みました。同時にコーラスグループなど一対一の介助のお手伝いを頂く団体も決まり、さらに、社会福祉協議会からは出演者へ贈る花の協賛を

戴くなど、他団体を含むボランティアの協働の体制ができました。

当日は大盛会

午前十時スタッフ集合、ボランティアネットワークの松本さんの手配でできた立派な看板の掲示、参加施設ごとの位置決めとイスの準備、車椅子の舞台への乗降用スロープの設置、外の看板や受付準備など、応援を含む当日スタッフによる準備作業が行われた。

十二時三十分過ぎから順次出演者が到着、スタッフと介助支援のコーラスグループの方の誘導で次々に舞台上へ上がりました。

十三時には開場、一般のお客様さんもお見えになり客席は埋めつくされました。十三時三〇分松嶋さんの総合司会で「歌の会」の始まり。

オープニングは「夏は来ぬ」の全員合唱の後、伊藤講師の「チューリップ」の歌に合わせた指体操で会場

の雰囲気は一挙に和らいで「アザミの歌」「雨降り」代表の挨拶と進み客席の皆さんが順番に紙風船をつく「まりと殿様」、輪唱の「静かな湖畔」では舞台と客席が一体となつて一挙に盛り上がりしました。

全員の合唱で盛り上がる

最後にコーラスグループの合唱で締め、エンディング演奏されて無事歌の会は終了しました。

終了時には参加者らのたくさん笑顔と「次も是非お誘い下さい」の言葉に朝からの疲れも癒される思いでした。（文責 松尾禎夫）



講師紹介シリーズ 第六回

フラ・オレンジ

多くの人に楽しんでほしいフラ

フラは、ハワイの歴史や伝統と結びついた神聖な踊りで、癒しのダンスとして、愛されています。センター元気の催しの常連であり、地元の盆踊りにも出演するフラ・オレンジを、梅沢香代子さんに紹介していただきました。

フラ・オレンジの創立は、平成九年一月一二日に行われた「オレンジの会」発会の集いに遡ります。当日披露されたフラに感動した十人前後の会員が、仲間と一緒に楽しく踊りたい、他人にも見てもらって楽しんでほしいとの想いでスタートしました。

配役

ビス活動から始まった「オレンジの会」は、会員の努力と地域福祉・



日野原先生とフラ

高齢者福祉の変遷に伴い大いに発展し、いまだ七グループ（北、南、清



子供たちとフラ

川、デリカ、西、東、中央）を擁する大きな会となりました。フラ・オレンジもこれとともに成長し、会員も二十人を超え、「オレンジの会」の七グループそれぞれでフラの活動が行われる

鯉のぼりの下でフラ



ようになりました。フラ・オレンジのメンバーは、それぞれのグループを指導するとともに週一回のレッスン会で研鑽を積み、さらには都心に出かけて先生の指導を受けるという、八面六臂の活躍を続けています。出演の場面もますます広がりが、高齢者施設・福祉施設ばかりではなく、地域の集会、老人会、学校等に招待されたり、地元の盆踊りに組み込まれたりして、多くの人に癒しと楽しみを振りまき続けています。

(文責・柴田)

<平成19年度 活動成果>

事務所運営日 145日(月平均12日)
 講師登録者数 222名(平成20年3月末)
 対前年比 74名増
 コーディネーター登録者数
 70名(平成20年3月末)
 対前年比 15名増
 主催事業 傾聴ボランティア養成講座2回
 車椅子講習会 七夕祭り 認知症サポーター
 養成講座 秋祭り楽しみまショウ いちよう祭り
 施設・講師懇談会

新規成約件数 77件
 (前年度62件)
 スポーツ・レク 7件
 文化・学習 9件
 音楽・書道・絵画 13件
 茶道・華道・手芸 3件
 趣味・娯楽 30件
 福祉・相談 12件
 その他 3件

<これからの主催事業予定>

- 第4回傾聴ボランティア養成講座 10月17日(金)～11月12日(水)
- 講師・施設懇談会 11月19日(水)、11月21日(金)

アクティブ市民塾

あなたの趣味、特技を活かしましょう

八王子市市民活動支援センターの九月講座は、二十日に定員の倍近く受講者を迎えて行われました。

高田登さんの司



に数あるボランティア団体の中で、力強く活動しているセンター元気をアピールしました。

講座の前半では、各受講者の活動状況

会のもと、センター元鹿又ワカ代表が、高齢者の生きがいづくりと地域の活性化に取り組む『八王子センター元気』の活動とコーディネート登録の流れや現状を、力強く話されました。

を含めた自己紹介に加え、コーディネーター活動の事例として大村忠敬さんの「マジック」、根本ヒロ子さんの「絵手紙」、笠原菊江さんの「ちぎり絵」が、紹介されました。

資料として配布された講師の分野別一覧表は、市内

閉講後、講師登録を受け、五名の方の新規登録がありました。(文責 須田)

福祉講演会

老後を健やかにすごすコツ

――介護する人、される人

さる九月十六日に、「ひらかわクリニックの平川博之院長」による講演会が開かれました。高齢化の進む中で、元気で乗り切ると

め、のソウハウのほか、身近な人の異常なほどに早く気づく方法とその対応について、豊富な知識と経験をもとに、わかりやすくお話ししていただきました。定員を満席にしたこうした講演会の開催には、今後も多く期待されます。(文責 須田)

八王子センター元気のシンボル

「のぼり」ができました。旗竿も用意しました。各種のイベントで使われるように期待しています。

市民活動支援センター

五周年記念行事に参加しました

八王子市の市民活動を支援する代表的な「市民活動支援センター」の創設五周年を記念して『五周年祭り』が、六月二十日から三日間、市内のいろいろな分野に活躍する各団体の協力で、さまざまな催し物として行われました。

センター元気は、二十一日の協力団体の日に、「生涯学習コーディネーター」

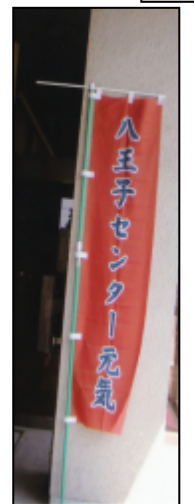
七夕祭り

天気にも恵まれたパーフォーマンス

「ササノハ サラサラ」のなつかしい童謡が思い浮かぶ『七夕祭り』に、七月五・六日の両日に亘って今年も参加しました。

センター元気の参加は、

昨年が続いて二度目になりましたが、事前打ち合わせも十分に行われて、音響、電源、水道などの他、出演者の控室などのインフラも整って、休憩や練習にも利用されて、出演者の皆様方には、大変に喜ばれました。華麗なフラの舞いやフー



師登録の拡大へ結び付ける目的で「オカリナ、マジック、三味線、紙芝居、胡弓、馬頭琴」などの素晴らしい演奏と演技を披露しました。(文責 渡辺重男)

(文責 須田)

さまざまな活動

子どもを支える活動

学園ものは高視聴率だ

TVのチャンネルを回すと毎日どこかの局で、必ずスクール・ドラマが放映されていることに気づくことでしょう。

真面目な学園ものであったり、手のつけられない悪ガキの立ち直りだったり、スポーツを通じての仲間づくりだったり、さまざま学校での出来事が、ドラマになっていて、常時二十%台の安定した視聴率を上げているといえます。ドラマの中から、過ぎた年月を懐かしむ中高年の方々、自分たちの今と比べて、現実を振り返る中高生たちと、人気の高さが、放映に区切りをつけない理由なのかも分かります。

チョコボラって何？

八王子市でも、ここ五、六年の間に、教育委員会を中心に、さまざまなボラン

ティア・グループが生まれ、地域を中心に、子どもらの支援活動を行っています。

市民が子どもを支える新たなうねりは、今確実に起こり始めているのです。「乳児支援、学童支援、困っている子どもの支援」など、市民がチョコボと手伝える支援がすぐそこに存在しています。(文責 須田)

車椅子実技も活発

車椅子介助に係る実技講座も、近來尊ばれており、受講者総数も二年で四十二名になりました。介助サポートなどに力強い応援をしています。



傾聴ボラに感謝多々

センター元気の定例となった「傾聴講座」は、今年で四年目を迎え、受講者は百八十七名にも上っています。受講者らは市内各所の特養などで、堂々と活躍され、大いに感謝されています。

編集雑記

『捨てる神あれば拾う神あり』の神は、異なることを行っている二体の神です。お願いをする時には、その場その場で最適な神様を想定してお願いをしているような気がします。このように、人はそれぞれに神をつくりあげ時と場所に依拠してその神を変えています。人間とは勝手なものだといえればそれまでですが、神とはこれほどに融通無碍とも言えるのではないのでしょうか。(柴)

「かみ」といっても色々ありますが、「紙」トイレットペーパー、試験問題用紙、公共用申請用紙など。「神」神様、仏様、貧乏神、水神様、氏神様など。「女将」旅館、商売をしている人達など。ちよつと書いていただけですがまだまだたくさんあります。

第五回 講師・施設懇談会

日時 (一日目) 平成二〇年十一月九日(水)

(二日目) 平成二〇年十一月二日(金)

いずれも午後一時三〇分から

場所 大横福祉センター 竹の間および末広の間
講師・施設・コーディネーター、三者の情報交換の機会です。ご参加をお待ちしております。

その時に応じて、年代、場所、時間等によって、いろいろな神様が現れることでしょう。受験

生ならば学問の神様にお参り。出産前ならば丈夫で健康な子供

が授かるようにと水天宮にお参り。年とともに、健康に気をつ

け、心の神様、まだ見ぬ神様に、日々頼り、願ったり、感謝したりしています。(郁)

私達は一日何時間かの少ない時間ですが何らかの社会奉仕活動に参加させていただいており

ます。夜寝む前にああ今日もおかげでいい一日を終えることができたと何とも言えない充実感が伝わってきます。こんなひとときの気持ちたちが心の充電となり、明日への活路になっているのでは。定例会などで皆さんの謙虚で真摯な姿勢に強く惹かれ神々しくさを感じるがあります。

『十月は神無月』といわれていますが、こんな身近に『みんながいて神がいる』ことに素直に感謝しております。(照)

陰暦十月は神無月(かんなづき)と呼ばれ、全国津々浦々の神様が出雲大社に集まり、国々を治める様々な談合を行うとされてきました。

八百万(やおよろず)という夥しい神様は、古来から守り神として祭られ、私達が持っている能力を最大限に引き出してくれる存在とされてきました。全国には、凡そ十二万社の神社が点在していますが、あまりにも多い神社のうち、その身分を失ったり、俗化したものが、再び神様として見直してもらおうと、悪さを働くようになった、いわゆる落ちぶれた神社が妖怪(お化け)なのです。

ちなみに、私たちに身近なお稲荷様は、全国に約二万社、八幡様は一万五千社、天神様は一万社が、存在しているといえます。(須)